



Data

監督: 篠原哲雄
原作: 横山秀夫『影踏み』(祥伝社文庫)
出演: 山崎まさよし/尾野真千子/
北村匠海/滝藤賢一/鶴見辰吾/大竹しのぶ/中村ゆり/竹原ピストル/中尾明慶/藤野涼子/下條アトム/根岸季衣/真田真垂美/田中要次

■■■ショートコメント■■■

◆横山秀夫の原作を映画化した名作といえ、すぐに『半落ち』(04年)(『シネマ4』230頁)と『64—ロクヨン—前編、後編』(16年)(『シネマ38』10頁、17頁)が思い浮かぶ。しかし、本作は警察組織小説で名を馳せた横山作品の中では極めて異色の、泥棒を主人公にした連作短編集が原作とのこと。そう聞くと、本作も必見!

泥棒にもいろいろあるが、歌手の山崎まさよし演じる主人公・真壁修一は人が寝静まった民家に忍び込む、「ノビ師」と呼ばれる常習窃盗犯だ。冒頭、彼の巧妙な手口が示されるが、そこで女の姿を目にした「ノビカベ」は意外にも……。何じゃ、これは……?

◆修一には、母親真壁直美(大竹しのぶ)と双子の弟啓二(北村匠海)を火事で失うという悲しい過去があった。そのため、修一はあの日、就寝中の夫に火を放とうとしていた妻・葉子(中村ゆり)を止めたわけだが、その直後に幼なじみの刑事・吉川聡介(竹原ピストル)に逮捕されてしまったから、アレレ。これは一体なぜ?

2年の刑期を終えて出所してきた修一は、その疑問を解明するべく以降刑事のような行動をとることに。そのため、幼なじみで、大人になってからも恋仲であるはずの女・安西久子(尾野真千子)の家を訪れたものの、久子の反対を押し切り、あくまで自分流の道を歩むことに。

◆本作のチラシには「犯罪小説ならではの<謎解き>と、登場人物に隠された<秘密>、人間の奥深い<心理>を重ねあわせた見事なストーリー。」とある。たしかに、本作では20年前の火事と2年前に修一がノビ師として押し入った葉子の家での「火事未遂」を絡めて微妙に揺れ動く修一の心理が描かれ、また、それに振り回される久子の女ゴコロも描かれる。しかし、それが一体ナニ?

他方、修一と同じく後に双子の弟だとわかる久能次朗(滝藤賢一)も登場する。この次朗は久子に結婚を申し込む誠実派だが、兄の方は……。そして、そこで起きる事件とは?

チラシには、本作は「映像か不可能とされた“異色”の犯罪ミステリーが、ついに映画化！！」とも書かれている。たしかにそうかもしれないが、滝藤賢一の過剰演技(?)を含めて、私には本作はイマイチ。ちなみに、『キネマ旬報』12月上旬特別号のREVIEWでも、3人の評論家は星2つ、3つ、2つと低評価だ。

2019（令和元）年11月29日記